

# 維和小だより

上天草市立維和小学校 学校だより NO. 6  
令和5年7月20日(木)発行 文責 手嶋

## 学校教育目標

夢に向かい、自ら進んで学び、  
心豊かでたくましい児童の育成



維和小HPへ

いよいよ明日から夏休みに入ります。子供たちはとても楽しみにしているようで、朝のあいさつも普段より声が弾んでいるように感じました。

夏休み期間中は、車の往来も増えますので、くれぐれも事故等にはお気をつけください。



## むごくない教育を！

今年度、子供たちの自主性を伸ばし、たくましい心身を育てるべく、様々な取組を進めているところです。子供たち自身も自分たちでよりよい学校にしようと、アイデアを出して実践しています。期待以上の力を発揮している子供たちに頼もしさを感じています。

さて、今、NHK 大河ドラマ「どうする家康」が放送中ですが、昭和の時代にも、「徳川家康」が大河ドラマで放送されていました。山岡荘八著「徳川家康」で描かれていた家康の幼少期のエピソードについてふれたいと思います。↓

徳川家康の父は三河を治める武将でした。しかも、三河は、織田や今川という大きな国に挟まれて、とても厳しい状況に置かれていました。そこで、家康の父は、竹千代を今川義元のもとに人質として差し出し、逆らう気のないことを伝えました。しかし、竹千代を人質にした今川義元は、一目見てその素質を見抜き、このまま成長すれば、将来必ず立派な武将に成長して、自分をおびやかす存在になるだろうと予感します。そこで家来に「竹千代には、むごい教育をせよ。」と命じました。数日後、義元は家来に「むごい教育をしているか？」と尋ねると、「はい『むごい教育』をしています。朝は早くから起こして、水練（水泳）をさせ、食事は三食とも粗末なものを食べさせています。昼は剣術や馬術に励ませ、夜は学問と休むヒマもなく厳しく教育しています。これほどの『むごい教育』はないと思われます。」これを聞いた義元は「馬鹿者！」と激怒します。そして、「それは『むごい教育』とは言わん！竹千代には、贅沢な食事を与え、朝から晩まで美味しいものを好きなだけ食べさせよ。寝たいと言ったらいつでもいくらでも寝かせてやり、休みたいと言ったら休ませよ。夏は暑くないように涼しくしてやり、冬は寒くないよう暖かくしてやれ。武術や学問が嫌だというなら、無理にやらせるな。本人の望む通りに、何でも与えてやり、好きなことを好きなだけさせて、どんなわがままでも聞いてやれ。」と言いました。すると家来が驚き、「それは、むごい教育ではなく、楽な教育ではありませんか？」と尋ねると、義元は「そのようにすれば、たいていの人間はダメになる。」と答えました。

(山岡荘八著「徳川家康」より)



義元は、これから武士として生きていく竹千代の将来を恐れ、わがままを許して楽をさせて、「辛いことにすぐに弱音を吐き、気力のない人間」にしようとしました。義元のいう「むごい教育」とは、「厳しく教育すること」ではなく、必要以上に「甘やかすこと」でした。(ただ、実際には厳しい人質生活を送ったとか、自由に腕白に過ごしたとか、色々言われていますが、義元の名軍師と言われる太原雪斎に叩き込まれたことで、やがて天下人へと大成する人格が形成されたのではないか等、諸説あります。)

現在の日本の若者・子供たちには、他者への思いやりの心や迷惑をかけないという気持ち、生命尊重・人権尊重の心、正義感や遵法精神の低下や、基本的な生活習慣の乱れ、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などの傾向が指摘されている(文科省HPより)そうです。時代が違うとはいえ、我慢や辛抱、困難を乗り越えることを経験させなければ、子供はどう育っていくのでしょうか。些細なことで心が折れてしまったり、自分の思い通りにならないとすぐにキレてしまったりするような子供になってしまうのは残念です。結果的に現代版「むごい教育」になってしまかもしれません。自分の気持ちに折り合いを付けて我慢をすること、苦手なことや面倒だなと思うこともあきらめずに取り組んでみること、決めたことをやり遂げるなどのことは、子供の成長にとって、とても大事なことであり、がんばらせたいものです。

これから社会を生き抜くために、学校や家庭において「むごくない教育」を進めていきましょう。生きていく上で、楽しいことばかりではなく、きついなと思うことや壁にぶつかることが必ずあります。それを乗り越えられるように、しっかり褒め励ましながら子供たちを鍛えていきましょう！

## 夏休みを充実したものに！

終業式では、42日間の休みをどう過ごすのか計画を立てること、「これだけは頑張った！」と言えるように、何かに取り組むこと、そして、命を大事にすることを話しました。

特に、チャイムも鳴らない、時間割もない毎日をいかに過ごすか、「1日24時間をデザインすること」が大事です。休みだからと、だらだらと過ごしてしまうと、もったいないです。ぜひ夏休みにしかできないこと、夏休みだからできることにチャレンジしてほしいです。「考動力・コミュニケーション力・チャレンジ力」をぐんと伸ばしてほしいと思います。

子供たち一人一人が達成感と充実感をもって夏休みを終えることができるよう、ご家庭でもサポートをよろしくお願ひします。



そして、毎日、家の仕事（手伝い）を1つでもさせてください。家族の一員として、何かを継続して行うことが大事です。家の仕事をさせるメリットとして、

- ① 手順や段取りを考え、思考力が高まる。
- ② 生活力がアップする。
- ③ 達成感を味わい、責任感が育つ。
- ④ 自信や意欲、自己肯定感が高まる。



などが挙げられます。

誰でもはじめは上手くできません。時間がかかるからといってさせなければ、いつまでも上手にななりません。夏休みだからこそ、新たなことに取り組ませてみられてはいかがでしょうか。「家族の役に立った」「だんだんできるようになってきた」という気持ちをもたせていく、さらなる意欲へと繋げていっていただきたいと思います。夏休みこそ、「むごくない教育」を進めていきましょう！

## すてきな学校にするために！「考動力」発揮しています！

6年生の国語で、身の回りの課題を見つけ、その解決策を考え提案する学習がありました。「節電、節水、ごみの削減、トイレの清掃」について、グループごとに取組を進めました。

- ① 節電を呼びかけるポスターを作成し、廊下に掲示する。
- ② 節水のため、雨水タンクを用意し、栽培している植物や野菜の水やりに使う。
- ③ 給食の残菜を減らすために、「給食完食シート」を作り、完食した学年にシールをあげる。
- ④ たてわり班でチームを作り、床・便器・ぞうきんに分け、週1回トイレ掃除をする。専用のBGMやネームプレートも作成し、楽しく行う（トイレモンスター）。

素晴らしいアイデアに、拍手をくりたいです。さすが6年生！最上級生としての自覚と責任感が育ってきていますね。

紙面の都合上、代表して④グループの取組を紹介します。今まで、トイレ掃除は高学年が行っていたのですが、みんなで使うところなので、全員でやった方がよいと考え、たてわり班で行うことを提案しました。掃除のやり方を教えると、低学年の子供たちも上手に掃除をすることができます。感心したのが、音楽をかけるなど、楽しくトイレ掃除をするための工夫です。

自分たちで掃除をすることで、スリッパもきれいに並ぶようになるかもしれませんね！



### 【上天草市内小中学校 閉庁日】

8月10日（木）～8月16日（水）

緊急な用件やけが・事故等が起きた場合は、留守番電話にて対応いたします。新型コロナウイルス罹患についての連絡は不要です。よろしくお願ひします。